『全青司会長の任期を終えて』

第41代全国青年司法書士協議会会長
南薩支部　**梅　垣　晃　一**

１．全青司とは何か。

全青司とは，何か。会長の任期を終えた今ですら，私には，その明確な答えはまだ出ていません。たとえば，全青司は，社会貢献事業に取り組んでいることから，「司法書士の唯一の良心である。」と評されることがあります。あるいは，意見の対立の激しい憲法問題にも果敢に切り込んでいくことから，一般性をもった「法律家団体」たらんとする組織であると評されることもあります。しかし，全青司が誕生した沿革的な経緯を踏まえていえば，日司連に対峙してそのアンチテーゼを提案すべき団体である，ということになるでしょう。これに対し，活動に参加している今の若手の現場感覚からいえば，全国組織の交流団体であるということも事実でしょうし，会則に従って定義をするならば，「市民の権利擁護」及び「法制度の発展」のために，研究し活動する団体であるということになります。

そのどれもが正しく，しかし，そのどれもが全青司の全てを語り尽くしているわけではないところに，全青司のつかみどころのなさ，そして広がりがあります。全青司の会員は，約3000人。それぞれが，自分の視点から，自分の描く全青司像をもっています。その像と，会長や執行部が描いている像を，できるかぎり合致させ，全青司が組織として瓦解しないようにすること。これこそが会長・執行部に課せられた大きな命題であろうと思います。

私は，平成28年３月のなら全国大会・定時総会に始まり，本年３月のいばらき全国大会・定時総会までの１年間，ひたすらにそこに意識を置いて，事業執行を行ってきたつもりです。その成果がどれほどのものであるかは，私にはわかりませんが，幸いにして，全青司という熱い団体を，さらに熱い情熱をもった広瀬新会長（埼玉会）につなぐことができたのは，望外の喜びでした。

２．つらかったこと

平成28年度においては，事業テーマを，『法と暮らしのセーフティネットの担い手として～想像し，行動し，つながる・つなぐ青年法律家としての司法書士の役割を果たす～』としました。11の委員会を設置し，他人の立場，目に見えない痛みに思いを馳せること，想像することに軸足をおいて事業を実施する方針とし，生活保護１１０番，労働トラブル１１０番，全国一斉の養育費相談会などを開催しました。そのほかにも，様々な事業執行をしてきましたが，特に，印象に残っていることを３つ挙げておきます。

⑴　災害対策事業の展開

平成28年度は，自然災害の多く発生した一年間でした。熊本大地震はもとより，相次ぐ台風の被害があり，さらに鳥取でも大きな地震がありました。そのたびに，対策本部を設置するかいなか，現地視察はどうするか，被災地会に対する支援体制はどうあるべきか，などを迅速に判断していく必要がありました。結果として，熊本地震と台風被害について災害対策本部を設置することとし，６月11日～12日には，熊本会と共催により，避難所に巡回する形での相談会を実施しました。急なお願いにもかかわらず，全国から70名を超える会員がボランティアで参加していただいたこと，また，150万円以上のカンパがあったことをご報告したいと思います。

⑵　辺野古プロジェクト

沖縄県名護市辺野古沖に予定されている米軍の新基地建設工事をめぐり，平成29年２月に会長声明を発出しました。声明は，『辺野古新基地建設工事を中止し全国の自治体を等しく候補地として国民全体で議論を深めるべきこと，　並びに，普天間飛行場の移設先の決定につき日本国憲法に則り立法措置と住民投票を求める会長声明』というタイトルであり，その内容はこのタイトルに凝縮されているとおりでした。本声明を発するまでには，全青司の内部で様々な意見対立がありました。最終的には，法律家団体を標榜する組織として，この内容であるならば発出することがきるし，また，世論に対する訴求力をもつのではないか，との合意に至ることができましたが，そこに至るまでには，何重もの全青司内のデュープロセスを経ることが必要でありました。全国組織における意見集約のむずかしさを痛感いたしました。

⑶　会長の言葉の発信

全青司執行部と，会員をつなぐものとして，本年度は，会員向けメール・マガジン「ブリッジ」の配信に注力しました。２週間に１度のペースで配信し，事業の報告や案内をすることはもとより，活動の意義や委員長以下の役員の熱い思いなどもたびたび取り上げました。また，会長からのコラムも28回分寄稿し，できるだけ自身の言葉で会員に語りかけることを心がけました。

３．謝辞，若手へのメッセージ

会長をつとめるにあたり，鹿児島県内，そして九州の諸先輩方から，繰り返し，貴重なアドバイスをいただきました。特に，全青司会長・事務局を引き受ける若手に恥をかかせるわけにはいかないと，県会執行部のみなさまには，陰ひなたに御援助，アドバイスをいただいきましたこと，改めて，感謝申し上げます。

そして，私たちに続く鹿児島の青年会のみなさん。2009年かごしま全国大会から，はや10年が経過しようとしています。私の全青司経験は，全国大会の主管から始まりました。私たちの世代に続くみなさんのご活躍を心より願っています。